

役割語研究の視点から見た人物の性格と言葉づかい
-アニメシリーズの人物紹介文と登場人物の発話の分
析-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学大学院 公開日: 2022-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 深田, 芽生 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22218

役割語研究の視点から見た人物の性格と言葉づかい ——アニメシリーズの人物紹介文と登場人物の発話の分析——

Speech Expressing the Personality from the Perspective of Role Language

——Analysis of Character's Profile and Speech in Japanese Anime——

博士後期課程 国際日本学専攻 2021 年度入学

深 田 芽 生

FUKADA Mei

【論文要旨】

役割語研究において人物の性格は、副次的に捉えられている要素である。過去、金水（2003）では広く性格も人物像の 1 つとして定義に含まれていたが、金水（2016）の新しい定義や、性格と言葉づかいとの結びつきに注目した西田（2009）や富樫（2009）をはじめとする一連の研究の後、近年では性格に起因する表現は役割語というよりも、「属性表現」や「役割語的表現」といった、役割語とは似て非なるものという見方が示されるようになってきている。本稿では「女好き」「臆病」「御調子者」「紳士的」の 4 つの性格を対象に、特定の性格と言葉づかいがどのように結びついているのか、そして性格に起因する言葉づかいの特徴とは何かの 2 点に注目し、分析を行った。

国民的アニメ 5 シリーズの主要登場人物の性格とその発話について、4 つの性格を対象に調査した結果、①性格は 1 人の人物に対して複数付与、そして相反するものの付与が可能であること、②言葉づかいと結びつく性格の中にはいくつかのパターンが見られること、そして③性格と言葉づかいとの関係は、必ずしも双方向的でないことの 3 点が明らかになった。このことを踏まえると、性格を役割語における人物像の 1 つとして数えるのは難しいと言える。

【キーワード】 役割語 役割語的表現 ステレオタイプ 性格 アニメ

1. はじめに

従来、1人の人間が使用することばの多様性は、位相差や社会方言、あるいは指標性によるものと理解され、「話し手は場面や状況、話す内容や相手に応じて、最適なスタイルを選び、それに応じてことばを使い分ける」という説明がなされてきた（金水 2003, 定延 2011 など）。しかし近年、上記のようなことばの個人内変異は、場面や状況など以外の人物像やキャラのような要素によっても変化する、ということが金水、定延の一連の研究や渋谷（2015）で指摘されている。その中でも、アニメやマンガ、ドラマといったフィクションの世界に登場する人物とことばの結びつきが注目されはじめたのは、金水（2003）の中で「役割語」という概念が導入されてからのことである。以降、役割語は、これまで、日本語の世代差、性差、職業差の観点、あるいは、外国語との対照や日本語教育への導入など、様々な観点から研究がなされてきた。

ところが、老齢の男性と「わし」「じゃ」といった言語形式が結びついた「博士語」や、女性と「わたくし」「ですわ」が結びついた「お嬢様ことば」等の言葉づかいを代表的な例とした役割語は、年齢や性別、職業といった社会的な属性に主眼が置かれており、「性格」の部分にはあまり注目されていなかった（富樫 2009, 西田 2009, 小松 2013 など）。さらに一連の研究の後、直近の定延（2020）や金水（2020）の研究・発表では、「キャラ」や「人格」といった人物の根幹にかかわる内面的な要素と、言語との関わりについても言及されるようになっており、現在の役割語研究は人物のさらに本質的、内面的な部分に焦点が当てられ、これまでの属性と言葉づかいという枠組みを超えようとしている段階にあると考えられる。本稿は、国民的アニメ5シリーズを用いて「役割語的表現」を分析することで、近年多様化しているフィクションの言語表現においてより広く人物像とことばの結びつきを整理し、明らかにしようとするものである。

2. 研究背景

本稿に先立って登場人物とことばの結びつきについて研究されたものとして、ここでは「役割語」（金水 2003）、「キャラ」（定延 2011）、そして「属性表現」（西田 2010）や「役割語的表現」（富樫 2021）と呼ばれる表現に関する一連の研究を取り上げ、定義とともにまとめる。また本稿では、上記の研究の他にヴァーチャル方言を扱った田中（2014）を参考に調査を行っているが、これらは各章で必要に応じ適宜紹介することとする。

まずは、基本となる金水の役割語に関する研究についてあげる。役割語は、金水（2003）において提唱されたもので、次のように定義されている。

ある特定の言葉遣い（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかに使用しそうな言葉遣いを思い

浮かべることができる時、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。

(金水 2003)

金水(2003)では役割語を「言語上のステレオタイプ」ととらえており、これまで女性語や男性語などは社会言語学の分野でよく研究されていたが、それ以外のステレオタイプの言語についてはあまり研究されてこなかったということが述べられている。上記のような定義をもって提唱された役割語だが、一連の研究の後、金水(2016)では以下のようにも述べられている。

役割語と結びつけられる「人物像」とは特定の社会的・文化的グループに対応するものに限って考えたい。例えば性別、世代・年齢、居住地域・国籍・民族、社会階層・職業等である。

(金水 2016)

以降「人物像」という語が指し示す範囲は、金水(2003)の定義からさらに「社会的・文化的グループ」に限定され、役割語を言語における社会的・文化的なステレオタイプとしてとらえる見方が新たに示されている。さらに人物像に新たな「地域」、「人間以外」という属性を加える一方、金水(2014)では「性格」に関してはやや個人的な問題になってことばの問題とは関係しにくいとして、副次的に捉えようとする考えも示している。本稿における役割語の基本の定義は金水(2003)によるが、2つの定義を分けて扱う際には前者の金水(2003)の定義を役割語(広義)、後者の金水(2014, 2016)を役割語(狭義)と表現する。

次に、「キャラ」について取り上げる。「キャラ」、及び「キャラクター言語」は、定延(2011)の中で紹介されたことばである。「キャラ」という語は分野によってその定義が変わることがあるが、定延による専門語としての「キャラ」は、定延(2011)の中で、「本当は意図的に変えることができるが、変わらない、変えられないことになっているもの。それが変わっていることが露見すると、見られた方も、見た方もそれが何事であるかすぐにわかり、気まずい思いをするもの。」と定義づけられている。定延(2016)では、上記の定義に加え、更にキャラとことばの結びつき方を図1中①から④に示した4通りに分類しているが、このうち2つ目の分類(図1中②)の中に、金水の役割語や後述する「属性表現」などが属するとされている。定延の研究では、金水のような人物像やことばづかいに関する制約は設けられておらず、役割語以上に広く人物像とことばとの結びつきが捉えられている。

最後に、人物の性格西田(2010)の「属性表現」、富樫(2021)の「役割語的表現」についてそれぞれ紹介する。前述の金水や定延の研究を受けて、西田(2010)が新たに提唱したのが「属性表現」である。西田は「ツンデレ」という属性に注目し、役割語の中でも特に登場人物の性格的属性などの人物の部分的な属性を示す言語表現についていくつかのケーススタディと分析を行った。その結果、性格などの「属性表現」について「人物像の全体的なイメージを喚起させる役割語と部分的な属性をしめす「属性表現」とでは、しめす人物像の質に相違はあるものの、人物像と言語表現

とを関連付けるという基本のところでは、同一の基盤にある」と述べた上で、新たに以下の6つの定義づけを行った。

- a. 現実の世界でおこなわれる表現とは直接的にむすびつかないというヴァーチャル性をもつ。
- b. 特定の言語表現とさししめす人物像とに関連性がある。
- c. 言語表現のさししめすのは人物の全体像ではなく部分的な属性である。
- d. 言語表現のさししめす属性は現実の世界における存在の裏づけがない。
- e. 「属性表現」の使用されるキャラクターには性格の統一性がなくキャラクターの破綻ともとれるような例がある。
- f. 「属性表現」は一般的にはしられているものではないもののその属性自体が社会的な地位や職業として認識されることで役割語となる可能性がある。

さらに西田（2010）の属性表現と似たような立場がとられた研究として、富樫（2009）などがある。富樫は西田同様「ツンデレ」を対象に、つかえや接続助詞「から」による言いさしなどに注目して「ツンデレ」と結びつくと思われる言語表現について分析を行った。富樫（2009）では「性格感情という内面のものであることが、キャラクターの役割を決める上での障壁となっている」と述べられ、このような点が「ツンデレ」表現を典型的役割語として扱われにくくしている要因ではないかと考察している。またツンデレは「素直になれない」という側面を持っているものの、「素直になれない」登場人物が全てツンデレとは言えないという点にも注目し、「性格属性の描写の内でも、典型的役割語に近いものとそうでないものがある」という可能性が新たに指摘されている。

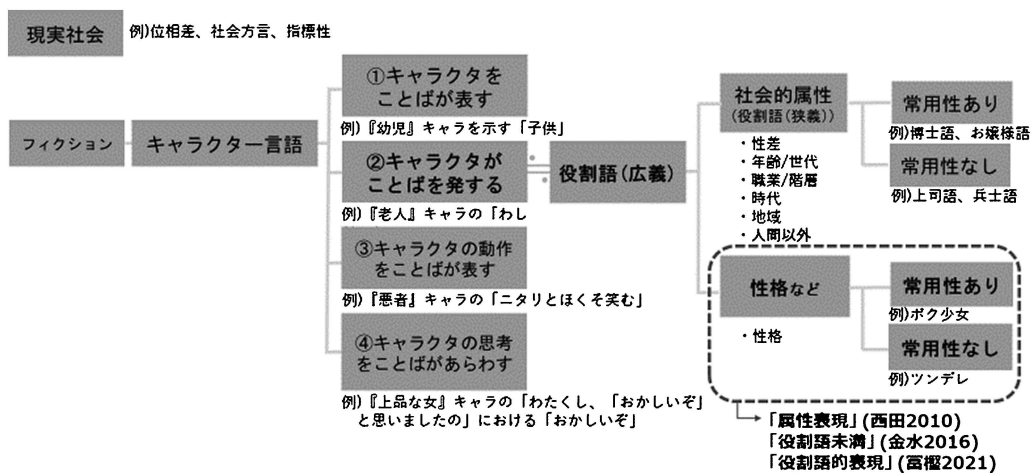


図1：役割語における「性格」に関する先行研究のまとめ

このように人物の内面を示すパーソナルな部分と役割語に関する研究は研究者の間でも見解が分かれているが、本稿では3つ目にあげた西田・富樫の立場を採用し、「性格」を人物属性の1つとして捉えて分析を行う。図1は、上記の人物像と言葉づかいに関わる一連の研究と『日本語学大辞典』の記述、及び、それぞれの関係についてまとめ、筆者が作成したものである¹。厳密には定延による②の定義と金水の「役割語（広義）」の定義は異なるものの、ここでは先行研究のおおまかな把握のため、図1のように表している。本研究では主に図の点線で囲まれた、「役割語的表現」（あるいは属性表現、役割語未満）とされている部分を中心に扱うことになる。

以上の性格と言葉づかいに関わる先行研究の問題点をまとめると、次のようなものがあげられる。まず1つ目に、人物属性の1つとして言葉づかいとの結びつきが研究された性格が少なく、一般的でないことがある。西田や富樫が例としているのは「ツンデレ」（西田 2009, 富樫 2009）や「ボク少女」（西田 2011）、「のじゃろり」（富樫 2021）など、「オタク文化を共有する受容者」のみ共有されている知識」（金水 2016）とされうるものである。これらの性格だけでは、広く一般に共有されているという証明が難しいため、より複数の基本的な性格をとりあげ、言葉づかいとの結びつきを明らかにする必要がある。そして2つ目に、このような人物の性格に起因するとされる言葉づかいが役割語とどのように異なっているのか、何が共通していて何が相違しているのか明らかになっていない部分が多いということがあげられる。

以上の問題点から、複数の人物、及び作品間で共有された性格に起因する言葉づかいについて、その結びつきを明らかにすること、そしてその調査結果を踏まえ、性格に起因する言葉づかいの特徴を明らかにすること、の2点を本稿の調査の目的として定めた。次項では上記の研究目的を達成するための対象の設定と研究方法について述べていく。

3. 研究方法

3.1 研究対象

役割語はいわゆる芸術的な作品よりも、大衆的な作品、B級作品と言われる作品でより多く活用される傾向にあるとされている。先行研究では漫画やアニメ、ドラマ、映画、落語、漫才など様々な媒体を用いた調査がなされているが、本稿ではその内、国民的アニメ5シリーズの劇場版作品を研究対象として扱った。アニメを研究対象とした理由としては、漫画や小説などに比べ、言語形成期から視聴できるため、より幅広い世代に影響を与えていると考えられること、また音声、映像を伴う視聴覚媒体であるため、金水（2003）における言葉づかいの要素（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を全て確認できることがあげられる。本稿では言語表現の分析を行うため、発話スクリプトのみを研究資料としているが、今後あらゆる方面での分析を可能にするため、小説ではなくより多くの要素を分析できるアニメを扱うこととした。

¹ なお定延の「キャラ」研究では現実社会の言葉づかいが扱われていることもあるが、今回はアニメを調査対象としているため、フィクションにおける研究を中心に記述した。

さらに、国民的アニメ作品と言える作品の選定については、大河ドラマとNHKの朝ドラからヴァーチャル方言を研究した田中（2014）の大河ドラマ等の選定基準を参考にして、アニメの作品選定を行った。選定基準には、幅広い年齢層に視聴されていることや、歴代の興行収入が高いこと、地上波で再放送されるため視聴できる機会が多いことなどを設定している。また本編であるテレビ放送のシリーズではなく劇場版を対象としたのは、どのシリーズも1作品が90～120分間に完結するため資料の量が調整しやすく、主要な登場人物を限定でき、全ての作品DVDが入手・実見が可能なためである。これらの基準を設けた結果、研究対象として以下の5シリーズ²が選出された。

表1 研究対象とするアニメ5シリーズ

シリーズ名	原作・原案	放送開始年	日本語字幕付き劇場版作品数
ドラえもん	藤子・F・不二雄	1973年	12作品
クレヨンしんちゃん	臼井儀人	1992年	13作品
名探偵コナン	青山剛昌	1996年	6作品
ポケットモンスター	田尻 智, 増田順一, 杉森 建	1997年	12作品
ONEPIECE	尾田栄一郎	1999年	7作品
計		50作品	

3.2 研究方法

3.2.1 登場人物の性格の判定

登場人物の性格の判定には、各作品の公式サイトに記載されている登場人物紹介文を用いた。各放送局などが公開している作品の公式サイトに記載されている人物紹介文は、誰でも実見可能でアクセスが容易な公的な資料であり、且つ人物の評価や説明に客観性を有しているという点で、今回の調査に適した資料だと言える。また紹介文中の登場人物の性格を表す表現は様々で、判断に迷うものもあるため、性格を表す語や表現の抽出には村上（2002）や『分類語彙表 増補改訂版』を用いた。村上（2002）は、性格表現用語を『広辞苑 第5版』から収集し、性格表現用語としての適切さの調査を行って基本語彙の収集とリストの作成を行った調査である。この調査によって作成されたのが今回使用する「基本的な性格表現用語」で、名詞、形容詞、動詞、副詞、複合語が計934語収集されている。村上（2002）以前に性格の分析に語彙的アプローチを行った研究として青木（1971）や辻（1997）などもあるが、より豊富な語が収録されていること、そして収録語としての適切さが大学生によって調査されていることから、今回はこのリストを参考にした。

² 対象としたシリーズの中には『ポケットモンスター』のように放送年代によって名称が変わっていることがあるため、以降、本稿ではタイトルの一部を同じくする一連のアニメを総称して「シリーズ」、映画などを個別に「作品」と記述する。

基本的にはこの村上（2002）に含まれる語を「性格」として抜き出しているが、その中に含まれない語が「性格」に分類した記述の中に見られた場合、適宜『分類語彙表 増補改訂版』も併せて使用し、「1.2340 人物」と「1.34」「2.34」「3.34」の「行為」に含まれる語であれば同様に抽出することとしている。なお、抽出の際、活用形の違いは同じ語として認め、類義語は1つの語に統一した。以下に示した『ドラえもん』の主要登場人物である野比のび太の紹介文を例として、上記の基準で性格を判定すると、のび太は「優しい」「怠け者」「どじ³」という3つの性格の保持者である、ということになる。

1) 心やさしい怠け者 のび太

生年月日 野比のび太（のびのびた）。 8月7日生まれ。

せいかく 勉強もスポーツも苦手ななまけ者。

好きなもの 特技はあやとり、早寝、射撃。 しずちゃんが好き。

ドジで、ジャイアンやスネ夫にいつもからかわれているので、ドラえもののひみつ道具にいつも助けてもらっている。でも自然や動物が大好きな心やさしい男の子。

（『ドラえもん』、のび太）

さらに今回、村上（2002）や『分類語彙表 増補改訂版』両資料には見られないものの、複数の人物で性格としての記述が見られた「好奇心旺盛」「厳しい」の2語についても筆者の判断で性格表現用語に加えている。

2) 少年探偵団のアイドル的存在。自称「キュートな女探偵」で、好奇心旺盛だが、泣き虫でもある。 （『名探偵コナン』、吉田歩美）

3) 一味の頼りになる存在で、時には厳格な態度でルフィをたしなめることも。

（『ONEPIECE』、ロロノア・ゾロ）

以上の手順で性格を示す表現を抽出・集計した後、5シリーズの主要登場人物に見られる性格について分析を行った。

3.2.2 性格と結びつくことばづかいの分析

発話の分析には、劇場版作品の日本語字幕を、文字に起こした字幕スクリプトを一次資料として使用した。なお、5シリーズの劇場版は2019年度時点で計125作品が公開されているが、今回はDVDで日本語字幕を選択できる50作品をスクリプト作成の対象としている。調査は、複数の登

³ 資料とした紹介文中の表現に関わらず、抽出した語の表記や表現は村上（2002）及び『分類語彙表 増補改訂版』に合わせている。

場人物が持っている性格から見た言葉づかいにはどのような傾向があるのか、そして特定のことばづかいが作品内の登場人物全体の発話の中でどのように用いられているか、という2つの観点から行った。

まず、性格から見た言葉づかいの傾向についての調査では、5シリーズの主要登場人物の中で複数人に共通して見られており、且つ異なる作品間で特徴的な言葉づかいが共有されていると考えられる性格を対象にした。このとき、4.2.1で抽出したままの多様な性格表現用語を用いると、人物の性格が細分化し、まとまった発話の傾向を見ることが難しくなってしまうため、主要な登場人物に限り一部の性格について類型化を行った。類型化には「Weblio 類語辞典」と三省堂の『新明解類語辞典』を使用している。例えば「気の弱い」、「臆病」、「気の小さい」といった語は「非常に度胸がなく頼りないさま」を表すという辞書の記述において類義関係にあると判断し、まとめて「臆病」という1つの類型としている。

次に対象とした性格を保持する人物の発話から、複数の登場人物の間で共通して使用され、該当の性格と結びつくと考えられる言葉づかいを調査する。先行研究では人称代名詞や文末表現、感動詞や訛り⁴などが分析の対象となっているが、本稿でも先行研究で取り上げられている言語表現に注目して分析を行った。なお、定延の研究では「すべてのことばはとりあえず役割語である」という立場がとられているため、例えば「スー」といった空気すすりなどにも人物像が宿るとされるが、今回は字幕スクリプトによって用例を示すことが可能な表現のみを扱っている。

このような手順で特定の性格に特徴的な言葉づかいを調査した後、さらにその言葉づかいが当該の性格を保持しない人物も含め、全ての人物を対象にした時にどのように用いられているのかを分析した。性格からの観点だけでなく、作品全体での1つのことばづかいがどのような傾向をもって用いられているのかについても双方向から確認することによって、そのことばづかいが本当に性格に起因していると言えるのか、それとも性格が要因ではなく他の属性を持つ人物でも同様の使用例が見られるのかについて検証することができると考えられる。

4. 調査結果

次の表2は、『ドラえもん』、『クレヨンしんちゃん』、『名探偵コナン』、『ポケットモンスター』、『ONEPIECE』の5作品の主要登場人物が持つ性格を表にまとめたものである。基本的に表中の各シリーズの人物名は公式サイト掲載順に従って左から記載しているが、『ポケットモンスター』⁵のみ公開年のアニメシリーズによってヒロインと主人公のサポート役を担う人物が異なるため、表

⁴ ここで言う「訛り」とは、方言だけでなく「汚い」が「きたねー」になるといった、ぞんざいな発音も含んでおり、本来の発音や標準的な発音から外れたもの全般を指す。

⁵ さらに『ポケットモンスター』は各シリーズによって主人公サイドの人物が入れ替わるため、ここでは日本語字幕のあった劇場版作品から3シリーズの登場人物を示している。シリーズは上から「ダイヤモンド&パール」「ベストウィッシュ」「X&Y」。

を作成する都合上右に記載した。本来、これらの人物は主人公である「サトシ」の次に紹介されている。

表2 5シリーズの主要登場人物と性格

ドラえもん	ドラえもん	のび太	しずちゃん	ジャイアン	スネ夫	出木杉	ドラミ	パパ	ママ
		優しい 怠け者 どじ	優しい しっかりもの	乱暴 頼もしい	ナルシスト 臆病	頭の良い 優しい	頭の良い 気がつく	優しい	怒る 怖い おっちょこ ちよい
クレヨン しんちゃん	野原しんのすけ	野原みさえ	野原ひろし	風間くん	ネネちゃん	マサオくん	ボーちゃん		
	人騒がせ 女好き		女好き	頭の良い ナルシスト	おませ 明るい	臆病	ほんやり 無口 頼もしい		
名探偵 コナン	江戸川コナン /工藤新一	毛利蘭	毛利小五郎	阿笠博士	灰原哀	吉田歩美	円谷光彦	小嶋元太	鈴木園子
		優しい 世話好き	女好き	変わり者 理解		好奇心旺盛 臆病	頭の良い 紳士的		好奇心旺盛 御調子者
ポケット モンスター	サトシ	ムサシ	コジロウ	ニャース	ジョーイ	ジュンサー	ヒカリ	タケシ	
						頼もしい	きっぱり さっぱり	温厚 女好き	
							アイリス	デント	
							野性的 行動的	物知り	
							セレナ	シトロン	ユリーカ
									しっかりもの
ONEPIECE	モンキー・D/ ルフィ	ロロノア・ゾロ	ナミ	ウソップ	サンジ	トニートニー・ チョッパー	ニコ・ロビン	フランキー	ブルック
	奔放 頼もしい 楽観的	親分肌 義理堅い 厳しい 頼もしい	しっかりもの 口達者	嘔吐き 器用者 臆病 御調子者 勇敢 明るい	向上心 厳しい 頭の良い 女好き	素直 努力家 好奇心旺盛 勇敢	冷静 頭の良い 大らか 厳しい	男らしい 情け深い 涙もろい 義理堅い	明るい 女好き 下品 紳士的 御調子者

5作品の中で複数人に共通して見られる性格としては、「女好き」と「頭の良い」が最も多く6人、次いで「頼もしい」「優しい」が5人、「臆病⁶」が4人、「明るい」「御調子者」「厳しい」「好奇心旺盛」「しっかりもの」が3人、そして「義理堅い」「勇敢」「紳士的」「ナルシスト」が2人ずつという結果になった。中でも、「女好き」や「臆病」という性格を持つ人物は過半数の作品内に存在していることから、この5シリーズにおいては、「女好き」や「臆病」等の人物が何らかのステレオタイプを有している可能性が高い、ということになる。今回は、上記の複数人に確認できた性格の中から、複数の作品に共通して存在し、且つ特に発話内で目立った特徴が見られた「女好き」「臆病」「御調子者」「紳士的」の4つの性格を対象に分析を行った。対象とした性格の保持者は表2の中では太字で示している。

⁶『ドラえもん』のスネ夫について、公式サイト的人物紹介文では相当する記載はなかったものの、劇場版の公式サイトにおける人物紹介では「弱気」「泣き虫」と評されることが多いため、今回は発話分析に用いた資料に合わせ「臆病」という属性を追加している。

また今回、主要登場人物の中でも特に主人公や準主人公とされる『名探偵コナン』の江戸川コナン、『ポケットモンスター』のサトシといった登場人物の紹介文からは性格として抽出できる表現が見られなかったが、この点については、主人公は視聴者が自分を同一化する存在であるため、標準語が用いられやすいという役割語の特徴が関係していると考えられる。今回調査した4つの性格も、『クレヨンしんちゃん』の野原しんのすけを除いて主人公格以外の人物に見られていることから、性格に起因する言葉づかいについても役割語同様、言葉づかいにもその特徴が現れるような個性の強いものは、主人公格の人物よりもむしろ、その周辺の人物に見られやすいのではないかとということが考えられる。

4.1 「女好き」

まず、今回の調査範囲の中で最も件数の多かった「女好き」について見ていく。「女好き」は『クレヨンしんちゃん』の野原しんのすけ、野原ひろし、『名探偵コナン』の毛利小五郎、『ポケットモンスター』のタケシ、そして『ONEPIECE』のサンジ、ブルックの6人に観察された。これは、対象作品の中では「頭の良い」と並んで最も多くの保持者が見られた属性であり、5シリーズ中4シリーズの登場人物に確認できた。このことから、「女好き」は一部のジャンルや年齢層において局所的に共有されたものではなく、物語において一般的な属性だと言えるだろう。各人物が「女好き」と判断できる記述は、人物紹介文中でそれぞれ以下のように示されている。

4) 男には容赦ない一方で、女性に減法弱い。

無類の女好きで、美女に弱いばかりか、女性ならばたとえ敵であっても攻撃しない徹底ぶり。だらしのない面もあるが、ボロボロになっても女性を守る騎士道精神の塊なのだ。

(『ONEPIECE』, サンジ)

5) 紳士的な物腰ながら、美人に目がなく、やたらパンツを見たがるなど下品な発言も少なくない…。

(『ONEPIECE』, ブルック)

6) 普段は温厚な性格だが、年上のキレイなお姉さんには目がなく猛烈アタックする情熱的な一面もある。

(『ポケットモンスター』, タケシ)

7) 別居中の妻・妃絵里とは、蘭の必死の努力でたびたび顔を合わせるが、女好きの一面が邪魔をし、素直に復縁へ向かうことは難しい。

(『名探偵コナン』, 毛利小五郎)

8) 好きなものは美人のおねいさんと、お菓子「チョコビ」。

(『クレヨンしんちゃん』, 野原しんのすけ)

9) しんちゃんの「おねいさん好き」は、この人ゆずり。

(『クレヨンしんちゃん』, 野原ひろし)

4) から9) のような紹介文の記述を見ると、「女好き」という性格は「女性、特に美しい女性に

目がなく、他の人物を相手にする際とは異なった行動をとる」属性として広く共有されていることが分かる。そこで本項では、サンジの「男には容赦ない一方で、女性に減法弱い。」やタケシの「普段は温厚な性格だが、(中略)情熱的な一面もある。」に代表されるような、条件にあてはまる女性と、それ以外の他の人物それぞれを相手にした時に表出される性格の切り替えが、言葉づかいにも表れるのかという点に注目して分析を行った。

- 10a) うっせー クソ野郎ども！ 人にものを頼む時は 敬語だ バカ！ 俺は レディーの ために 生まれてきたんだ！ あ？
- 10b) どうも マドモアゼル 私この船のコック サンジです ここで貴方に出会えたのは まさに運命～♡ (『ONEPIECE』, サンジ)
- 11a) 近道なら おれに まかせてくれ
サトシ ヒカリ どうなってるんだ
- 11b) おっしゃるとおりです 自分もジョーイさんと同じく ポケモンバッカーの試合がー 楽しみでなりません 自分は 楽しみ人間の タケシと申します 楽しみは1人より2人のほうが 2倍… いや4倍になります！ ぜひ自分はジョーイさんと いっしょに試合を楽しみたい… ハギャ… (『ポケットモンスター』, タケシ)
- 12a) オラ 子どもと遊んでいるヒマは ないんだゾ
- 12b) カロリーナ先生！ オラと二人で おどってください
オラの現地妻に なってください (『クレヨンしんちゃん』, 野原しんのすけ)

用例 10) から 12) はそれぞれ、aは男性や身内に対する発話、bは「女好き」としての属性を発現させていると考えられる女性に対する発話を示したものである。最も特徴的なのは、該当の性格を発現している際、人称詞や文末形式、訛りや尊敬表現の有無などに違いが見られることだろう。またサンジや毛利小五郎、野原ひろしは通常時「野郎」「ども」「ガキ」などの卑罵表現や、「うるさい」が「うっせー」になるなどの訛りを用いているが、対女性の発話ではそれらを用いなくなるという変化も見られた。

これらの例を見ると、「女好き」という性格が発話に現れる特徴は、発話相手が女性という条件をかけることでスタイルシフトをすることにあると考えられるが、一方で野原しんのすけやブルックのように、同じ属性を持っていても比較的言葉づかいの変化に乏しい人物も存在している。また発現条件となる「女性」という対象についても、サンジは性別が女性であれば誰でも発現するのに対し、タケシや野原しんのすけ等は容姿や年齢についての制限が設けられている場合があり、同じ「女好き」とされる人物であっても、その条件が有効な範囲やその特徴が言葉づかいに表れる程度はそれぞれ異なっていると考えられる。

このように相手によって人称を変化させたり、訛りを用いなくなる、あるいは待遇表現を用いる

よくなるという変化は他の人物にも見られるものであったが、それが対女性に過剰になるというのは、「女好き」特有の現象であった。タケシや毛利小五郎のような必要に応じて待遇表現を用いることができる所謂大人とされる人物では、それが一般的に適切な使用なのか「女好き」という性格によるものなのか一概に判断できないこともあるが、そのような場合においても、以下の13)のように同じ初対面の相手に対しても、男性には丁寧語のみ、対象となる女性に対する発話(用例11b)ではより上位となる尊敬語や謙譲語を用いるといった差が見られた。以上のような例から、「女好き」という性格は特定の言葉づかいとの結びつきがあると言える。

- 13) (初対面の男性に対して) い いえ こいつは ぼくの 双子の弟なんですけど時々 変なことを言うくせ があつて… (『ポケットモンスター』, タケシ)

4.2 「紳士的」

次に「紳士的」という性格について取り上げる。辞書で「紳士的」という言葉を引いてみると、「紳士らしいさま。品格があつて礼儀正しく、相手の立場を尊重するさま。」とある。「紳士」というと階層や性別などの社会的属性との関わりもあるが、「紳士的」というと「紳士」のような振る舞いをする人物を意味するため、階層や性別は問わないという違いがある。本稿では「紳士的」を社会的属性を表す「紳士」とはまた別の性格を表す属性として捉えた。

この属性を持つ登場人物は『名探偵コナン』の円谷光彦と『ONEPIECE』のブルックの2名のみである。相手に関わらず、常時尊敬表現を用いることで丁寧な姿勢を示すのが特徴的な性格だが、ここで注目したいのは、必ずしも相手への敬意を表しているとは限らないという点である。

- 14) (独話) 私…肉ないんですけどォ～
なんでしょう か 今の音
新しい服のコーディネートは 私におまかせください (『ONEPIECE』, ブルック)
- 15) ずいぶん 高く飛ぶんですねー
あれ? 博士! 画面が消えちゃいました!
このままじゃ ぶつかっちゃいますよ (『名探偵コナン』, 円谷光彦)

特にブルックは独話においても敬語が見られることから、単なる待遇表現としてではなく、人物の性格における特徴付けとして敬語を使用している可能性が高いと考えられる。また、敬語を使用すること、及び「紳士的」であることと振る舞いの丁寧さは一致せず、敬語であるにもかかわらず、相手に対して失礼な内容であったり、わがままな物言いをするものも多い。このことから、これらの登場人物が用いる待遇表現は「品格」や「礼儀正しさ」を演出するためのあくまで形式的なものであり、待遇意図を伴っているかどうかは問題でないことがわかる。したがって「紳士的」な

人物は、待遇表現を扱う際に併せて表出される品や敬意といった内面的な印象を、常時待遇表現を用いるという手法によって表しているということが考えられる。

では、このような言葉づかいは「紳士的」な人物に特有のものなのだろうか。次に示したのは、対象 5 シリーズの主要登場人物が用いる一人称と訛りの有無をまとめた表である。

表 3 一人称

	江戸川コナン /工藤新一	毛利蘭	毛利小五郎	阿笠博士	灰原哀	吉田歩美	円谷光彦	小嶋元太	鈴木園子
名探偵 コナン	おれ ほく	わたし	おれ わたし	わし	わたし	あゆみ わたし	ほく	おれ	わたし そのこさま
ONEPIECE	モンキー・D/ ルフィ	ロノア・ソロ	ナミ	ウソップ	サンジ	トニートニー・ チョッパー	ニコ・ロビン	フランキー	ブルック
	おれ	おれ	わたし (あたし)	おれ ウソップさま	おれ わたし	おれ	わたし	おれ おれさま	わたし

表 4 訛りの有無

	江戸川コナン /工藤新一	毛利蘭	毛利小五郎	阿笠博士	灰原哀	吉田歩美	円谷光彦	小嶋元太	鈴木園子
名探偵 コナン	○	×	○	×	×	×	×	○	×
ONEPIECE	モンキー・D/ ルフィ	ロノア・ソロ	ナミ	ウソップ	サンジ	トニートニー・ チョッパー	ニコ・ロビン	フランキー	ブルック
	○	○	×	○	○	○	×	○	×

これらの表からは、相手に関わらず常時待遇表現を用いるという点以外に、他の登場人物と比べて「紳士的」が特徴的な点がさらに 2 つ確認できる。まず 1 つが「一人称」だ。特に分かりやすいのが『ONEPIECE』で、表 3 の太字で示した男性の登場人物のうち、ブルック以外の人物は「おれ」を基本の一人称としているのに対し、ブルックのみが「わたし」を用いていることが分かる⁷。全員が「海賊」という職業属性を持つ中での特定の男性による「わたし」の使用は、発話の中で特徴的に働いていると言っていいただろう。また『名探偵コナン』の男性登場人物である 5 人は、一見するとそれぞれ多様な一人称が用いられているように見えるが、阿笠博士は「博士」という職業に寄って博士語である「わし」が用いられている、江戸川コナン（工藤新一）、毛利小五郎は相手によって意図的に一人称を使い分けることのあるものの、基本は「おれ」を用いているという事情を考慮すると、円谷光彦の「ほく」の使用は全体の会話の中で特徴的に働く。特に、同年代の男性である江戸川コナン、小嶋元太との会話ではその表現の差が顕著になっている。

さらに、訛りの使用についても同様の特徴が見られる。2 作品の男性登場人物のほとんどが訛りを用いて話すのに対し、円谷光彦とブルックは基本的に訛りを用いることはない。阿笠博士は「博士語」の制約を受けるため訛りの使用は見られないという例外はあるものの、粗野な印象を持たせる訛りを使用しないという点は、全体の会話の中での差を生み出すことにつながっている。以上の

⁷ サンジによる「わたし」の使用理由は、前項の「女好き」によるもの。

点から、「紳士の」な登場人物も「女好き」同様、性格と言葉づかいが結びついていると考えられる。

4.3 「臆病」

「臆病」は『ドラえもん』のスネ夫、『クレヨンしんちゃん』のマサオくん、『名探偵コナン』の吉田歩美、そして『ONEPIECE』のウソップという4人の登場人物に見られた属性である。なお、この「臆病」は「気弱」や「泣き虫」といった「ささいな事にもこわがったり、自信がない人」を示す語をまとめりとして扱った、1つの類型となっている。

- 16) おまっ おんまっ 冒険はどうすんだよ！
えっと… それは…
う… わ 分かった 分かった！ (『ONEPIECE』, ウソップ)
- 17) でも… だって… 新作が…
よ よんでください！ (『クレヨンしんちゃん』, マサオくん)
- 18) そ… それで ほくたちに どんなご用件で？ (『ドラえもん』, スネ夫)

上記の用例を見ると、「臆病」な人物の発話においては「えっと」などのフィラーや、発話頭の一つかえに加え、3点リーダーが表すポーズなどが特徴的と言える。これらの言葉づかいについても、「臆病」特有の表現かどうかを検証した。すると、このような表現は「臆病」な人物に限らず、あらゆる人物に使用が見られることがわかった。

- 19) ほ…本物よ これ！ あんたたち！ ありっただけ詰め込んで～？ (『ONEPIECE』, ナミ)
- 20) た たまたまだ (『ONEPIECE』, ゴロ)
- 21) い いえ こいつは ほくの 双子の弟なんですけど 時々 変なことを 言うくせがあって… (『ポケットモンスター』, タケシ)

一つかえは、驚きやためらいなど心の動揺を示す表現とされているが、心の動揺というのは、必ずしも「臆病」だけのものではなく、すべての人物に起こりうる心的な現象である。実際の用例においても、「臆病」という属性を持つ人物以外のどの登場人物でも、相応の場面に相対した際にはその使用が確認できた。したがって、「臆病」が用いるフィラーなどの要素は性格から見た際には特徴的に見られるものの、前項の「女好き」や「紳士の」とは異なり、発話全体の中で見るとその固有性は薄い、ということが言える。

4.4 「御調子者」

「御調子者」という属性を持つのは『名探偵コナン』の鈴木園子、『ONEPIECE』のウソップとブルックの3人である。5.1から5.3であげた3つの性格に比べるとその特徴は少ないが、その中でも傾向が見られたものをあげる。

- 22) 大丈夫ですか？ マドモアゼル (ロビンに対して) (『ONEPIECE』, ブルック)
- 23) さあ お前達 ポップグリーンをどんどん 生み出すのだ 害虫バスター
ウソップ様が 外敵から守ってやるからな
サンジく〜ん! (『ONEPIECE』, ウソップ)
- 24) なに言ってんの そんな最新鋭の金庫なんて キッド様にかかればちょちょいのちょいよ
ガキンチョじゃない
園子様にまかせなさい! (『名探偵コナン』, 鈴木園子)

「御調子者」の特徴は、ほとんどの登場人物がどの相手に対しても一貫した呼称を用いるのに対し、場面や人によって極端に呼称を変えることにある。通常、『ONEPIECE』のブルックは仲間であるロビンを「ロビンさん」、ウソップはサンジを「サンジ」と呼称するが、22)や23)のように、時折ふざけた呼称を用いる例が見られる。また、ウソップと『名探偵コナン』の鈴木園子には調子に乗った時(性格が発現した時)、一人称が「名前+様」となるという共通の特徴も見られた。

この人称詞の特徴についても、他の性格と同様に全体の発話の中で検証を行ったが、ここでは特に、一人称を取り上げる。5.2であげた表3を見ると、一人称では、既に人称を変えることを特徴としてあげている「女好き」を除いても、複数の人物が様々な人称を使い分けていることが分かる。特に、『ONEPIECE』に登場するフランキーは一人称にウソップに類似した「俺様」を用いることがあるが、作品の中では彼には御調子者としての一面は見られない。したがってこの「御調子者」という性格も「臆病」同様、性格に共通する傾向的な言葉づかいが見られるものの、必ずしもすべてが性格に起因する言葉づかいとは言えないという結果になった。

4.5 考察

以上、ステレオタイプが働く傾向にある性格と言葉づかいとの結びつきについて、国民的アニメ5シリーズの人物紹介文と劇場版の字幕スクリプトを用いて調査を行い、そのうち「女好き」「紳士的」「臆病」「御調子者」という4つの性格を取り上げて分析を行った。5.1から5.4までの議論を踏まえ、2つ目の目標である性格に起因する言葉づかいの特徴について考察を行う。

まず、性格は1人の人物に対して複数の付与、そして相反するものを付与することが可能なことがあげられる。社会的属性は、金水(2016)で述べられているように、社会や文化の中で客観的に決定されるため、その対応は基本的に1対1である。さらに、性別や年齢といった人物に基

本的に備わっている属性以外に、職業や地域に特徴的な属性を持つ場合、他の特徴的な社会的属性や役割語とは共起しにくいということもある。例えば「博士」という職業をその人物の代表的な属性として持った人物は、その役割語度の強さから基本的に博士という役割のみを表出することになり、言葉づかいは博士語になる。これに「お金持ち」や「関西人」という要素や言葉づかいが加わるようなことは、あまりない。よりテンプレートから外れない「博士」像として描くのであれば、他の属性はなるべく足さない方がより「博士」らしい「博士」として描かれるのである。そこから逸脱することで新たな人物像として成立することもあるが、過度に特徴的な社会的属性を重ねると、所謂設定を盛りすぎたという状態になってしまい、登場人物の人物像がぼやけてしまう。

これに対し、性格は同一人物の中に複数共起することが表2からも確認できる。特に顕著なのが『ONEPIECE』で、彼らは1人あたり平均4つもの性格が付与されている。このように、性格は1人の人物の中に複数存在していてもその人物の人物像が不明瞭になるということがなく、むしろ物語の展開によって新たな一面が明らかにされていくことによって、当該人物に奥行きを与える要素として働く。さらに、ウソップの「御調子者」「勇敢」「明るい」と「臆病」「嘘吐き」のように一見相反する性格を併せ持つことができるのも特徴と言えるだろう。社会的属性においては、このような例は『名探偵コナン』の江戸川コナンや、いわゆる「オカマ」などの特殊な人物を除き許容されにくいと考えられる。このような特徴は実際の言葉づかいにも表れており、それぞれの場面に応じて発現させている性格に特徴的な言葉づかいが見られた。

次に、言葉づかいと結びつく性格の中にはいくつかのパターンが見られるということがある。5.1から5.4の調査から、「女好き」と「紳士的」が複数の人物に共通した言葉遣いの特徴と、作品内での固有性をどちらも確認できたのに対し、「臆病」と「御調子者」はある程度当該属性間で共通の言葉づかいが見られたものの、その言葉づかいに固有性はないということが明らかになった。このような結果からは、「女好き」と「紳士的」は性格に起因する言葉づかいがあると言えるが、「臆病」と「御調子者」はそのような言葉づかいがあるとは言い難いのではないかとと言える。では、同じ性格という人物属性の中で、なぜこのような違いが見られたのだろうか。ここではその考察として、今回調査した4つの「性格」をその性質によって大きく2種類に分類することを試みた。それが、感情の起伏等によって発現するものと、相手に対する振る舞いによって決定されるものである。どちらも根本的には人物の感情や意志といった内面的な要素から決定されたものという共通性が見られるものの、相手を意識しているかどうかという点に違いがあると考えられる。

「臆病」、「御調子者」は、どちらも当該属性保持者の感情の起伏によって発現する属性である。その発現はどちらも無意志的なもので、他の人物より感情の起伏が激しかったり、その感情を表出する頻度が高かったりした場合、その人物は「臆病」と評されることになる。したがって、これらの属性の保持者には話者の心的態度を示すフィルターや言い淀み、ポーズといったものが共通して顕著に見られていたといえる。しかし、このような感情は「臆病」や「御調子者」という性格保持者のみが有するものではなく、他の属性を持つ人物であっても、物語の進行や場面によって感情は

様々に変化する。誰しもが感じる感情の起伏が、他の登場人物より程度として多かたり、過剰に表出されているのが「臆病」や「御調子者」ということになる。発話との関連から見ると、動揺や不安、調子に乗るなどの感情は誰にでも発現しうるものであるため、その言葉づかいが性格によって頻出しているものなのか、或いは単に感情が表に出ている状態であるのかの判断ができない。これが、感情に寄った性格の言葉づかいが性格に起因するものだと言い難くなっている要因であると考えられる。ただ、今回の言葉づかいの要素から見た調査ではこのような考察をしたものの、今後、性格に起因する言葉づかい、感情が表出する頻度や同じ場面における反応の差などを比較することによって、何らかの違いを検証できるようになる可能性もあるだろう。

そして最後に、性格と言葉づかいとの関係は、必ずしも双方向的でないということがあげられる。これまでの例のように、「女好き」や「紳士的」などの性格からは、ある程度特定の言葉づかいを想起することが可能だが、反対に、言葉づかいから特定の性格を想起することは難しい。

25a) こちらでとれました 蜜を日本に空輸して 加工しまして わたしたち双葉商事が新しいブランドとして ドーンと…

25b) もう おれたちだけの 問題じゃねえんだ あんなヤツらに やられてたまるか

(『クレヨンしんちゃん』, 野原ひろし)

26a) おっしゃるとおりです 自分もジョーイさんと同じく ポケモンバッカーの試合がー 楽しみでなりません

26b) 近道なら おれに まかせてくれ

サトシ ヒカリ どうなってるんだ

(『ポケットモンスター』, タケシ)

25ab) と 26ab) は、いずれも「女好き」の野原ひろしとタケシの発話例であるが、25ab) は上司とそれ以外の人物に対する発話であり、26ab) は女性と男性に対する発話である。26ab) に見られる「女好き」に傾向的な人称の変化や訛りの有無、待遇表現の変化のというスタイルの組み合わせは、25ab) にも該当していることから、必ずしも「女好き」という性格に固有のものではなく、あらゆる場面・人物で見られることがある。今回の調査で明らかになったのは、1つの作品内において、特に同一の社会的属性を持つ際、効果的にそれぞれの性格の違いを表現するため用いられる言葉づかいの傾向であり、役割語における「博士語」や「お嬢様ことば」のような特定の言葉づかいが属性を示すものではない。このように役割語と同じ形式をとって「女好き語」などの名を冠することができないことから、性格を役割語における人物像の1つとして数えるのはやはり難しいと言える。

さらに、ここであげた3つの特徴をまとめると、性格という属性の多面性が見えてくる。

図3は、社会的属性と性格、それぞれの言葉づかいとの結びつきのイメージを示した図である。ここでは、今回調査した4つの性格のうち3つを保持している『ONEPIECE』のブルックを例と

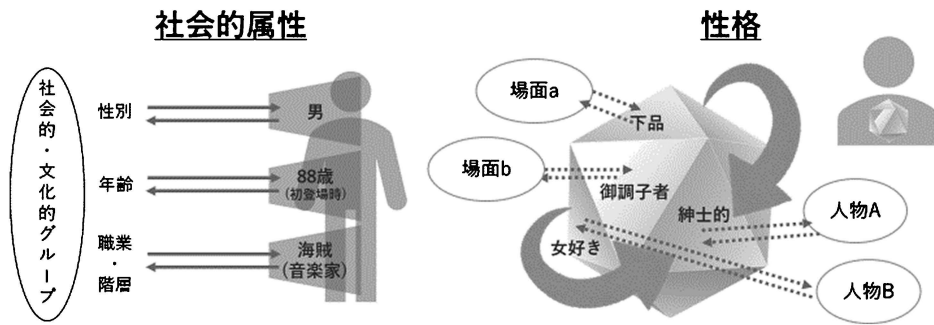


図3：社会的属性と性格における言葉づかいとの結びつきのイメージ

してあげた。この図では、社会的属性が社会や文化の中で客観的に決定されるものであるため、特定の1面のみを見せることが要求されているのに対し、性格は人物の内面的な部分による属性であることから多面性を持っていると考え、社会的属性を1つの面、性格を多面体として表している。考察の1つ目で述べた通り、社会的属性は1つの属性に対して基本的に1対1対応になっている分、その結びつきが強固になっているということが考えられる。この強固な結びつきが実際に言葉づかいにも反映されるため、社会的属性に基づく役割語は人物像と言葉づかいが相互に想起可能となっているのではないだろうか。反面、その強固さは属性の複数付与がしにくいという制限にもつながっている。一方、性格は場面や人物に対応して見せる面を切り替えられるため、言葉づかいとの結びつきが弱くなり、その結果言葉づかいとの関係が双方向的になりにくくなっているということが考えられる。結びつきが固定的でない分、様々な属性を複数併せ持つことが可能になっており、隣接する性格同士が影響し合うこともあれば、相反する性格が場面や人物によって切り替わるということも可能になっている。

さらに性格については、複数の人物が同じ性格を持っていたとしても、その性格が個々の登場人物にどのように反映されるのか、どの面が基本となりやすいのかはそれぞれ異なるということも言えるだろう。図3では簡略化のため正多面体を用いたが、これを実際の登場人物に当てはめると、恐らくそれぞれ面の広さ、そして場面や人物の制限なども人物によって異なっていると考えられる。また、「御調子者」と「女好き」のような性格は面が隣接しやすく、その境目がはっきりしない場合もある。性格はいくつかのタイプに分かれること、そして性格という要素が多面的であるということが、性格と言葉づかいとの結びつきを複雑化している要因だと考えられる。

6. まとめ

以上、本稿では性格と言葉づかいとの結びつきについて、複数の人物、及び作品間で共有された性格に起因する言葉づかいについて、その結びつきを明らかにすること、そしてその調査結果を踏まえ、性格に起因する言葉づかいの特徴を明らかにすることの2点を調査の目的とし、「女好き」「紳士の」「臆病」「御調子者」という4つの性格を対象として調査・分析を行った。その結果、以

下の3つのことが明らかになった。

- ① 性格は1人の人物に対して複数の付与、そして、相反するものの付与が可能
- ② 言葉づかいと結びつく性格の中にはいくつかのパターンが見られる
- ③ 性格と言葉づかいとの関係は必ずしも双方向的ではなく、役割語のように相互に想起しあうことはできないものの、登場人物間で性格の違いを明確にするための共通した言葉づかいがある

このような結果は、富樫（2021）の中でツンデレな人物を例に述べた2つの役割語との相違点とも関連している。富樫（2021）では、「感情」という要素と結びついていること、そして特定の言葉づかいが必ずしもツンデレ属性とのみ結びついているわけではないということの2点をあげているが、前項で述べた今回の調査結果と考察は、いずれもこの2つの相違点を支持するものとなった。このことから、性格を役割語における人物像の1つとして数えるのは難しいと言える。一方で、性格はいくつかのタイプに分類できるのではないかということや、複数所持の観点についてはこれまで議論されていなかった点である。今後はさらに多くの性格と言葉づかいを分析することによって、より言葉づかいと結びつく性格という人物属性について明らかにすることができると考えられる。また、今回は一部の人称詞や訛りの有無、待遇表現などを中心に言葉づかいの分析を行ったが、代名詞や感動詞、終助詞など他の要素についても分析を行うことによって、より詳細な特徴が見られるだろう。これらは、今後の課題としたい。

性格は、金水（2016）でも述べられているような社会的属性や、今回の調査結果のように場面や人物相関、そして物語の進行とも大きく関わっており、多面的、且つ可変性のある属性であると考えられる。このような要素は性格の特徴でもあり、これまで性格に関する調査が少なく、副次的に捉えてきた要因の一部でもあったと言えるだろう。これらの1つ1つをつぶさに調査し紐解いていくことによって、今後さらに人物像と言葉のより広い結びつきが明らかになっていくと推測される。

一次資料（本稿で用例をあげたもの）

今井一暁『のび太の宝島』（2018年）、シンエイ動画
橋本昌和『オラの引越し物語 サボテン大襲撃』（2015年）、シンエイ動画
高橋渉『爆睡！ユメミーワールド大突撃』（2016年）、シンエイ動画
高橋渉『爆盛！カンフーボーイズ～拉麺大乱～』（2018年）、シンエイ動画
立川譲『名探偵コナン ゼロの執行人』（2018年）、トムス・エンタテインメント
永岡智佳『名探偵コナン 紺青の拳』（2019年）、トムス・エンタテインメント
湯山邦彦『グラティナと氷空の花束 シェイミ』（2008年）、オー・エル・エム
湯山邦彦『幻影の覇者 ゾロアーク』（2010年）、オー・エル・エム
境宗久『ONE PIECE FILM STRONG WORLD』（2009年）、東映

長峯達也『ONE PIECE FILM Z』(2012年), 東映

宮元宏彰『ONE PIECE FILM GOLD』(2016年), 東映

参考文献・関連 URL

金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店

金水敏 (2014) 『「役割語」小辞典』研究社

金水敏 (2016) 「役割語とキャラクター言語」金水敏 (編) 『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ 2015 報告論集』pp.14-31, 私家版

小松満帆 (2013) 「役割語と「属性表現」の検証—アニメ『魔法少女まどか☆マギカ』を用いて—」日本語教育実践研究=Journal of the study of Japanese language education practice (1), 87-102, 2013 立教日本語教育実践学会

国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書

定延利之 (2011) 『日本語社会 のぞきキャラくり 顔つき・カラダつき・ことばつき』三省堂

定延利之 (2016) 『「キャラ」概念の広がりと深まりに向けて』三省堂

渋谷勝己 (2015) 「書きことばにおけるスタイル生成のメカニズム—山東京伝を例として—」社会言語科学 18(1), 23-39, 2015

田中ゆかり (2014) 『ドラマと方言の新しい関係—「カーネーション」から「八重の桜」,そして「あまちゃん」へ—』笠間出版

富樫純一 (2009) 「ツンデレ属性と言語表現の関係—ツンデレ表現ケーススタディー—」シンポジウム「役割・キャラクター・言語」(2009/03/28,29 神戸大学百年記念館)

富樫純一 (2021) 「役割語の先へ—役割語的表現への広がり—」日本語学 40(1), 26-36, 2021 明治書院

中村明 (2019) 『新明解類語辞典』三省堂

西田隆政 (2009) 「ツンデレ表現の待遇性：接続助詞カラによる「言いさし」の表現を中心に」甲南女子大学研究紀要, 文学・文化編=Studies in Literature and Culture (45), 15-23, 2009-03-19

西田隆政 (2010) 「「属性表現」をめぐるツンデレ表現と役割語との相違点を中心に—」甲南女子大学研究紀要 文学・文化編 (46), 1-11, 2009

西田隆政 (2011) 「「ボク少女」の言語表現：常用性のある「属性表現」と役割語との接点」甲南女子大学研究紀要. 文学・文化編 (48), 13-22, 2011

村上亘寛 (2002) 「基本的な性格表現用語の収集」性格心理学研究 11(1), 35-49, 2002

「Weblio 類語辞典」 <https://thesaurus.weblio.jp/>

「キャラクター紹介 | ドラえもんチャンネル」 <https://dora-world.com/characters>

「キャラクター | 名探偵コナン | 読売テレビ」 <http://www.ytv.co.jp/conan/character/category1.html>

「キャラクター | ワンピースとは | ONE PIECE.com (ワンピース ドットコム)」

<https://one-piece.com/log/character.html>

「『クレヨンしんちゃん』公式ポータルサイト | しんちゃんについて」

<https://www.shinchan-app.jp/about/index2.php>

「テレビ東京・あにてれ ポケットモンスター総合ページ」 <https://www.tv-tokyo.co.jp/anime/pokemon/>

「ドラ映画ヒストリー | 映画ドラえもん公式サイト」 <https://doraieiga.com/link/>

付記

本稿は 2020 年度修士論文の一部を基にしている。また本稿の一部を日本語学会 2021 年度秋季大会学生セッションにて発表を行った。会場でご教示くださった方々に感謝申し上げます。